

第 2 回 新庄市道の駅検討委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 9 月 29 日（金）午後 3 時から午後 4 時 45 分まで
開催場所	新庄市役所 3 階 第 1、2 会議室

出席者（敬称略・順不同）

・委員（10 名）

No.	氏 名	所 属 団 体	備 考
1	佐藤 慎也	山形大学学術研究院 教授	委員長
2	井上 達也	新庄市農業協同組合 理事参事兼企画管理部長	
3	笹木 透	新庄もがみ農業協同組合 営農経済部長	
4	大場 清文	新庄商工会議所 専務理事	
5	津藤真知子	株式会社もがみ物産協会 専務取締役	
6	大類 好一	新庄観光協会 事務局長	
8	白鳥 忠明	株式会社カキザキニューグランドホテル 支配人	
9	樋口 修	エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会 実行委員長	
11	金田 孝司	一般社団法人山形県建設業協会最上支部 副支部長	
12	伊藤 元昭	新庄市副市長	副委員長

（欠席委員 2 名）

・アドバイザー（1 名）

No.	氏 名	所 属 団 体
1	菊地 昭雄	山形県最上総合支庁建設部建設総務課 副主幹

・コンサルタント（2 名）

No.	氏 名	所 属 団 体
1	黒川 朋広	ランドブレイン株式会社仙台事務所 所長
2	山路 省一郎	ランドブレイン株式会社仙台事務所 室長

・事務局 3 名

No.	氏 名	所 属 団 体
1	土田 政治	新庄市都市整備課 課長
2	外塚 智	新庄市都市整備課 都市計画室長兼高速道路対策室長
3	日塔 涉	新庄市都市整備課 主事

会議事項

(1) 開 会
(2) 自己紹介（前回欠席委員 2 名）
(3) 協議事項 新庄市道の駅の検討について（立地場所）
(4) その他 第 3 回の道の駅外部検討委員会（外部視察）の案内について
(5) 閉会

(2) 自己紹介

前回欠席の 2 名の委員より自己紹介をしていただいた。

(3) 協議事項

新庄市道の駅の検討について（立地場所）

事務局より道の駅立地場所に関する説明（別紙資料 1、2 参照）

委 員 用地の取得に関して、市で購入するのか、国で購入するのか？

事務局 基本的には用地は市で購入する。一体型の場合建設費、維持費については国から一定額支援していただくことになる。

<集客力について>

委員長 各候補地の集客力についてどう考えるか。

委 員 集客力を考えると候補地 D がいいのではないか。今後、酒田方面、秋田方面へ高速道路が延伸すると新庄はちょうど中間地点になることから、一番集客が見込めるのではないか。他の候補地だと、観光客がわざわざインターチェンジを降りていかないといけない。

委 員 候補地 D については、市道からの接続ということであるが、現状の高速道路からのアクセスはできないのか。

事務局 すでに供用している高速道路に進入路をつけることは不可能なことではないと思うが、数億程度の費用がかかると考えられる。そこまでの費用をかけてまで、進入路をつけるかという問題がある。

候補地 D は旧松本団地（市有地）の活用を考え、市道からの接続という考え方だが、市有地を活用しない場合であれば、インターチェンジから降りて県道接続という場合も考えられる。

県 候補地 D は、2 つの高規格道路が交差する場所であるため、北側に伸びる県道に接している西側用地を活用するような直接乗り入れの場合であれば、県道管理者が道路管理上必要であるとして、一体型で整備することも考えられる。

委員 集客力という点だけで考えると、交通量は多いことに越したことはないが、果たして交通量だけでいいのか。少しアクセスが良くないところでも、道の駅自体に魅力があれば、人は来ると聞いたことがある。交通量だけでなく、どのようなコンセプト、魅力を出していくかについて考えていく必要がある。

例えば、候補地 A に隣接している国の重要文化財であるエコロジーガーデンは、他の道の駅にはない魅力があると思う。エコロジーガーデンは集客に結びつけられる魅力があると思うし、さらに魅力に磨きをかけることができれば、さらなる集客につながるのではないかと。

他の候補地は、既存の施設がないことから 1 から魅力を生み出さないといけない。既存施設の活用という意味では、候補地 A が良いのではないかと。

<用地の確保について>

委員長 各候補地の用地の確保についてどう考えるか。

委員 候補地 A か C がいいのかなと思う。例えば、候補地 C だと、交通アクセスが良いのが魅力だと思う。ただ、候補地 C については用地の面積が間に合うのかという心配がある。周辺には建物が多く、また、奥羽本線や陸羽本線が近くを通っていることから、用地の面積は制限されるのではないかと。

候補地 B に関しては、県立新庄病院の予定地が近接しているということだが、現状のままだと、国道の渋滞が考えられ、救急車にとっては不便になってしまう。国道を拡幅しないとけない。さらに後背に中の川という川もあるので、その辺も心配な点である。

県道と国道からの県立新庄病院へのアクセスについては、今後検討されるのではないかとと思うが、その周辺に道の駅を設置するといっても、県と国との調整が難しいのではないかと。道の駅の完成まで 4～5 年である一方、病院については建設までもっと時間がかかることが想定されることから、道の駅を考慮して道路アクセスを検討してくれるかどうか。もう少し候補地 B の位置を東側に移動させて検討した方がいいのではないかと。

委員 市民の立場からしたら、道の駅の場合、24 時間車が入り出すことから、騒音問題なども生じてくる。候補地 D のように、住宅が近いのはどうなのか。また、交通事故のリスクも出てくることから、周辺住民の生活を踏まえた検討をすることが必要。

委員 参考までに尾花沢の道の駅の面積について教えてほしい。

事務局 尾花沢の道の駅は約 1.5ha くらいで、大方の道の駅は 1ha から 2ha くらい。道の駅に他の連携機能が足されることで面積が大きくなる可能性もある。

委員 今回は立地場所の検討についてということだが、実際は、その道の駅で何を売るのか、何をサービスするのが重要。1 からすべてのものを揃えていくことが果たして可能かどうか、多くのお客様が訪れる施設になるのかどうかについてそれらを決

める責任を重く感じている。

山形県で利益が出ている道の駅もあると思うが、利益の出ているところは、接道の交通量が多かったり、アクセスが良かったり、魅力ある資源が揃っている。果たして新庄にそういう場所があるかというとなかなか難しい。

利益の出る仕掛けが新庄でできるのか、他の道の駅も様々な取り組みをしている中で、利益が出ていない道の駅が多い。そのような状況の中で、新庄で利益が出る道の駅をつくることができるのか不安がある。

用地買収をして1からやるとなるとどうしてもお金がかかってしまう。候補地 A であれば既存施設を利用できるという観点からすれば、多少予算は抑えられるのではないかな。

新庄市は、大型事業をやっては、財政的に難しい状況に追い込まれることを繰り返している。それであれば、なるべく費用がかからない方法をとっていく方が安全策ではないかな。

また、道の駅を整備することで、地元で頑張っている事業者と競争関係になり、結局は共倒れになる可能性もある。

委員 第1回の検討委員会の市長の挨拶の際に「最上ブランド」をいう言葉を使った。現在は、新庄市の道の駅を検討しているが、最終的には最上地域8市町村で作りに上げていくという風に考えている。他の最上地域の町村での取り組みはどうなのか。

委員 県で重点道の駅について検討していると思うので、県の方から説明していただければと思う。

県 やまがた道の駅ビジョン2020及び最上地域における「道の駅」ネットワーク構想の方向性について等の説明を行った。(別紙資料3, 4参照)

委員 大型観光バスの多くは、道の駅むらやまでトイレ休憩すると聞いたことがある。東北中央自動車道沿いとなれば、観光バスのトイレ休憩のポイントとなる可能性もあるし、素通りされるということもないのではないかな。

<周辺地域の魅力>

委員長 各候補地の周辺地域の魅力についてどう考えるか。

委員 道の駅を整備したところで、誰が運営するかが問題。手を挙げる民間事業者があるかどうか心配。

事務局 多くの道の駅は公設民営の形態となっている。先ほど大半の道の駅は赤字だという意見が出たが、県内の道の駅のうち4駅は、自治体から補助を受けずに自前で運営を行っている。維持管理費で大きいのは人件費だと思うが、年間数億の売上がないと維持していくことは困難だと思う。地元客がどの程度利用してもらえるかが重要になってくる。

委員長 エコロジーガーデンにはまゆの郷という直売所が併設されているが、運営はどのようになっているのか。

委員 エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会では、まゆの郷で利用してい

る施設以外の施設を活用して様々な活動をしている。運営面での関係性はないが、双方でさらなる集客ができるように取り組んでいる。エコロジーガーデンに道の駅の産直施設を整備するとなると既存の直売所の関係もあることから、共倒れになる可能性もある。

エコロジーガーデンを将来的には体験型の施設にしたいと考えている。活動を支えている若い仲間たちの中でも、道の駅の維持管理を考えた場合、活動の負担になるのではないかという意見もあったり、現在、駐車場とトイレが十分でないことから道の駅を整備することで、新たな駐車場やトイレが整備されるのであれば、多少の負担はいいのではないかなどいろいろな意見がある。

既存の事業者が困るようなものであっては困る。エコロジーガーデンは独自に整備する計画を進めている。道の駅を整備することで悪影響が出るのではあれば望ましくない。

ただ、他の候補地に道の駅が整備され、地域の事業者と競争し、共倒れになることは避けたい。集客率というが、多くの人がトイレだけ利用して帰る。トイレの清潔さだけで、道の駅の魅力を上げることはできない。

たしかに候補地 A はアクセスはよくないので、アクセスを考えれば候補地 D がいいと思う。ただ、群馬で人気の道の駅のように、アクセスが良くない道の駅でもにぎわっている事例もあることから、アクセスの良さだけではないと思うが、群馬の道の駅の事例は、首都圏からの客を見込めるので、新庄とは状況は異なる。

委員 既存施設と競争になることで弊害が生まれることもあることから、市街地から離れている郊外に立地している道の駅も多くある。道の駅の立地は市街地から離れている方が望ましいのではないかな。

委員 どの候補地も一長一短がある。市街地の既存事業者の売上が分散されてしまうことはあまり好ましくない。ただ一方で、国や県へ道の駅整備に向けての要望活動も行っている。商業分野だけでなく、工業分野を交えた考えた方があるのではないかな。例えば、道の駅の中で、新庄で作っている工業製品の展示など多機能的な要素があった方がいい。

委員 新庄は、1年の半分が雪に覆われてしまう。観光客だけでなく、地元客も利用できる施設にしないといけない。農家の高齢化が進んでおり、冬場に出荷できる農産品がないし、あったとしても種類が少ない。年間を通して様々な農産品を出していくんだという意気込みがないと成功しない。農協が主体になってしまうと農家の方の責任感が乏しくなってしまうことがある。

誰が運営をしていくか非常に大事になってくる。若い人が積極的に参画できるような仕組みづくりと常に活性化していける取り組みが大事だと思う。

委員 お土産に関しては、冬場だからといって商品数が減ることはないが、来客数は著しく減少してしまう。

道の駅を経営していくとなると、お客様がお金を落としてもらえる仕組みや、いかに魅力を出していくかを考えていく必要がある。

新庄が最上地域の中心となって発信できるようにしたい。

最上地域の若い人たちが道の駅があることによって居場所があると感じてもらえるようにしないといけないと思う。

委員 若い農家が農産物を提供できる場が少ない。若い農家の親世代と子世代にはまだまだ壁があることから、若い農家がチャレンジできる場があると面白いと思う。ただ、そこまで醸成されていないところもある。

委員 農家だけでなく、伝統工芸品など若い人の活動発信ができる場は必要。女性のさらなる活躍を考えると保育という面も重要になってくる。地域課題についてを広く考えると必然的に候補地選びができるのではないか。

情報提供として仙台の錦ヶ丘ヒルサイドモールがリニューアルした。今までお客さんが少なかった施設が大きく生まれ変わった。子供を遊ばせて、親が休める場所が少ないというニーズをうまくとらえていて、県外ナンバーの車も多く、魅力やニーズがあれば、遠くからでも人は来るし、物は売れしていくと思う。

県 近年、全国的に大規模な水害が多発していることから、県でも都市部を中心に洪水浸水想定区域について検討を行い、図化を行っている。この図面を元に各市町村で浸水ハザードマップを作製していく。現在、指首野川及び升形川の調査を行っている。次回の検討会の際にはお示しできると思うので、参考にさせていただければと思う。

委員長 候補地 B、C は、ともに大きな病院が近くあるという特徴があるがどうか。

県 周辺町村では、各道の駅を経由し運行するシャトルバスを新庄病院まで走らせる検討も一つの案として検討している。

委員 実際に、新庄徳洲会病院では各町村からシャトルバスが出ている。

委員長 本日は皆様から様々な視点からのご意見を頂いた。今日の話だけでまとめるわけではないが、次回の外部視察も踏まえて、改めて第4回の検討委員会で検討していく。

(4) その他

第3回の道の駅外部検討委員会（外部視察）の案内について行った。

日程については10月23日（月）を予定。

(閉会)

※発言内容をよりわかりやすく理解していただくために発言の趣旨と逸脱しない範囲で、表現等を編集しております。